

# 東由利町報

No. 259 昭和52年7月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



## 営農メモ

### ◎葉イモチ病の早期発見、徹底防除

葉イモチ病の蔓延は、穂イモチ病の多発生に直結し、減収の要因となります。田んぼの見回りをよく行い、早期発見、徹底防除が必要です。

### ◎中間追肥は慎重に

中間追肥は生育を乱し、倒伏、登熟不良などの原因となります。無理をしないように特に注意が必要です。  
圃場整備跡の水田の切土部分などでは、黄化させないよう、一回の追肥量は十割当りチッソで一・五キ程度とし、葉色に応じ化成肥料などを施します。

### ◎穂肥

穂肥の時期は、幼穂形成期（出穂前二十五日）から減数分裂期（出穂前十四日）にかけておこないますが、早めより遅めの方が安全です。生育に注意し、チッソで一・二キ、生育に応じN-K化成で行います。  
（東由利町農業総合指導センター）

No. 259

7/1

# 六月定例議会から

町議会第三回定例会は、六月二十三日に招集されました。開会に先立ち町長の町政報告があり、続いて会期を同日一日限りで決定し、二議員による一般質問のあと、昭和五十二年一般会計補正予算など報告一件を含む十五案件を審議し、いずれも原案どおりに可決して閉会しました。

町政報告と一般質問の要旨および議決された主な案件の概要は、次のとおり。

## 町政報告

### 開発センターの進捗は61%

51年度  
一般会計  
六千万円を繰越す

四月以降の町政を報告します。

〈産経関係〉  
冷害による苗不足は、五月二十五日現在十五畝と推定され、再播種の方向で指導したが、幸い農家相互の調整によつて解消できた。

水田総合利用対策は、転作目標面積十七畝に対して、実施計画面積は二十一・三五畝となっている。

政府売渡米の個人割当てはご承知のような経緯で六月七日付で各農家に割当てた。

県外優良素牛の導入は、七月上旬に町内の打合せをして中旬に現地調査、九月に買付けする予定である。

雇用保険の受給状況は、五十一年度は受給者七〇一名で金額九千九百万円でしたが、五十二年度は現時点（六月二十三日）で五三四名一八千四万八千円で、今後増加するものと思われる。なお、この八

建設投資は、次の世代における社会資本であるので、細心の注意を払い、良質なものを残さなければならぬと考えるので、議会の皆様より、それなりの批判と評価を賜りたい。

### 〈住民関係〉

自動車ポンプの発注は、六月一日に横手市の高義商会と契約し、納期は七月十日。

防火用水槽（家ノ下分）一基は、六月二十日に村上建設に発注、工期は七月三十日。

町単独の福祉電器架設計画は十三台のところ十二台を設置し、残一台も近々設置完了の予定である。

### 〈総務関係・その他〉

三月議会で申した役場庁舎の増築については、現在設計を依頼中なので、次の臨時議会に提案したいと考えている。

山村開発センターの進捗は六月二十日現在六十一％。

宿小ブルの進捗状況は、六月二十一日現在六十八％。

町民グラウンドの竣工検査は六月二十五日に実施する。

長期総合計画は、先般の（議会の）協議会における皆様

のご意見を徴して、現在作業をすすめている。

小松耕輔外の音楽顕彰については、人脈関係で苦労したが、幸い在京の緑りの人十四名、県内で故人の音楽の系譜を踏んでいる数名の方々に、顕彰の発起の快諾を得たので近々顕彰会の発足を、関係者と協議したいと考えている。

最後に、五十一年度一般会計の決算見込みは、歳入十三億六千九百九十七万七千円で予算比二・〇七増、歳出は十三億八千八百四十四万四千円で、執行率九十七・六％、差引き五千九

## 一般質問

### 役場通信は通知広報

主要道路の改良に  
最大限の努力を

町報の活用について  
各課長に伺いたい

- ① 町報の写真が多くなっているのではないかと。
- ② 町報と役場通信を一本化できないか。
- ③ 町報テーマについての担当者各課長の連携姿勢について。



表紙のことば

六月二十六日の第六回町球技大会には三千余人余が参加し好プレー、珍プレーを展開、百四十一万三千円の繰越してある。

この大がすつかり定着したことをうかがわせました。しかし、年々華やかになるユニホームや競争意識の先行で、「体力づくり、町民相互の親睦」という本来の目的から遠ざかっているのではないかと、警告する声もあり、チーム、個々において「原点に帰る」必要がありそう。

るものは役場通信を活用している。

### 単労職員の管理に一考を

各小中学校あるいは役場の単労職員の管理体制について、今一度考える必要があるのではないかと。

町長 勤務体制において管理監督の不適切な面については、十分に注意し、職員それぞれに戒めさせていく。

### 旧下中グラウンドの整備 その後の状況は

蔵地域のグラウンド（旧下中グラウンド）の整備については、昨年十二月議会でも質問があったが、その後の調査結果と結論について伺いたい。

総務課長 ①いかにして読んでもらうか、見てもらうかという手段として、写真を多く使うこともある。②町報は行政の知ってもらいたいこと、知らせたい

税務課長 ③基本的には総務課長の見解と同じであるが、役場通信の活用がほとんどである。

建設課長 ③事業の実施状況等については町報を、緊急を要す

が「正しい医療のかかり方」という演題で、健康管理の上で私たちがもつとも不安に思っているもの一つである「ガン」について、原因や因果など、その

### 政見放送の

#### お知らせ

七月十日執行の参議院秋田県選出議員選挙における政見放送が、次の日時で行われます。

テレビ放送

〈NHK秋田放送局〉

七月七日(木)

午前七時二十分～同五十分

①のろた芳成 ②伊藤昭

③沢田政治

〈株式会社秋田放送〉

七月二日(土)

午後二時十五分～同四十五分

①伊藤昭 ②のろた芳成

③沢田政治

ラジオ放送

〈NHK秋田放送局〉放

七月五日(火)

午前七時三十分～八時

①のろた芳成 ②伊藤昭

③沢田政治

〈株式会社秋田放送〉

七月二日(土)

午後四時三十分～五時

①伊藤昭 ②のろた芳成

③沢田政治

※(一)内の番号は放送の順序

投票は「一声かけて」総参加

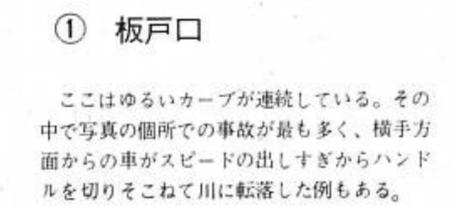
# 飲酒運転の横行を許すな!

今日から「飲酒運転追放県民運動」開始

「飲んだら乗るな! 乗るなら飲むな!」今では子どもたちでも口にするほど、浸透した「生活スローガン」になりました。しかし、実際的には「飲酒運転がまだまだ横行しており、町内でも毎年、検挙されたり、逮捕される者も出ています。

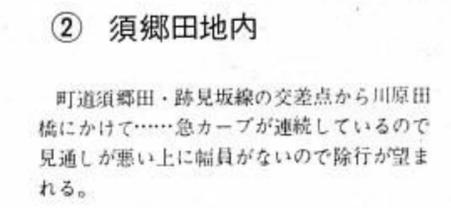
「飲酒運転」は、このあと九月十日までの間に五回開講され、健康で明るい郷土づくりのため、学習内容も母子衛生や成人病予防、精神衛生のほか、生活環境や農村医学など広範にわたっています。健康で明るい郷土づくりのため、

「危険!」の危険な運転。家族の悲惨さは、私たちの想像を絶するものがあります。これまでの交通事故を見るとその多くは、飲酒運転、スピード違反、無免許運転の、いわゆる「交通三悪」です。これらはどれもが、私たち一人一人の心がけて根絶させることのできる



① 板戸口

ここはゆるいカーブが連続している。その中で写真の個所での事故が最も多く、横手方面からの車がスピードの出しすぎからハンドルを切りそこねて川に転落した例もある。



② 須郷田地内

町道須郷田・跡見坂線の交差点から川原田橋にかけて……急カーブが連続しているので見通しが悪い上に幅員がないので除行が望まれる。



③ 蔵新田カーブ

(時速30kmの速度制限区域内)カーブがゆるいので、スピードを抑えないため、冬期には特に衝突事故が多い。



④ 蔵交差点

国道から岩館に分かれる交差点。直進の関係を理解していないと大事故の恐れもある。(本荘から横手方面への車が優先するので、岩館方面に向う直進車は一時停止)



⑤ 畑村地内

カーブがゆるやかなので減速しないための衝突や、冬期にはスリップ事故が発生しやすい。(時速40kmの速度制限区域内)

ものばかりです。今一度、一人一人がドライブマナーを再点検しましょう。多発・危険五か所をピックアップ。町内の交通事故(物損、人身とも)の多発か所、危険か所を町駐在所の警察官にピックアップ。プしてもらったところ、ゆるいカーブや交差点など五カ所が浮かび上がりました。ドライバーは、天候や道路の状況に即応した安全運転を心がけるとともに、ピックアップされた次の五カ所では、特に慎重な運転が必要です。

東由利町報 二五九 昭和五十二年七月一日発行 昭和三十二年七月二十一日第三種郵便許可 発行 秋田県東由利役場 毎月一日・十五日発行 一部20円 印刷 KK本間印刷所



# 町民のひろば

## 舟木集落 農場組合 で町内の視察研修

町に住んでいながら、町内でも行ったことのない部落や知らない建物がたくさんある。遠くへ出て観光を楽しむのもいいが、まず自分たちの住んでいる町の状態を理解しよう

舟木集落農場組合では婦人が主催して、去る六月七日「町内視察研修」を実施しました。この視察研修にはおあさんたちばかりでなく、同部落のおとうさんたちも参加し、二十余名の一行に役場から総務課長も案内役として同行しました。視察経路の概要は、



## 町内にもこんなにいい所が...

午前八時農協大琴支所前を出発し今年度舗装される土場沢林道を視察し高屋から須郷を経て大吹川へ冷水魚種苗水産施設(やまめ)を視察し県道仁賀保矢島館合線を経て八塩ダムへいこいの森を視察し石高農道を視察(經由)黒淵の稲作転換特別対策事業(葉タバコ乾燥棟)を視察し向田の特産林産物生

産流通改善対策事業(しいたけ)を視察し郡境を経て羽後町軽井沢へ岩瀬地区の開畑、圃場整備状況を視察して松沢へ町道台山線を経て、町営グラウンド・山村開発センター(いづれも建設中)を視察し県道老方沼館線を経て祝沢へ

午後一時役場を出発し積寒事業蔵上里線を経て法内集落農場組合(育苗施設)しいたけ栽培、ミニライスセンター)を視察し克雪克理センターを視察し高村葉タバコ栽培を視察し県道檜淵横渡線を経て大台の田園畜舎を視察し舟木へ

視察研修は、異口同音に「よかった」の声とともに、午後四時に終えました。

舟木集落農場組合では、現在葉タバコと肉牛の生産にとり組んでおり、この視察研修でまた新たな意欲をかきたてられたようであり、今度は部落の若い人たちにも、ぜひ見せてやりたい」という声も聞かれました。一行が特に感嘆したのは、八塩ダム周辺のいこいの森で、これまで観光という遠出ばかり考えていたが、私たちの町にもこんなにいい所があるなんて...という声に代表されます。

郷土再発見」という感じの一日であったようです。

午後一時役場を出発し積寒事業蔵上里線を経て法内集落農場組合(育苗施設)しいたけ栽培、ミニライスセンター)を視察し克雪克理センターを視察し高村葉タバコ栽培を視察し県道檜淵横渡線を経て大台の田園畜舎を視察し舟木へ

視察研修は、異口同音に「よかった」の声とともに、午後四時に終えました。

舟木集落農場組合では、現在葉タバコと肉牛の生産にとり組んでおり、この視察研修でまた新たな意欲をかきたてられたようであり、今度は部落の若い人たちにも、ぜひ見せてやりたい」という声も聞かれました。一行が特に感嘆したのは、八塩ダム周辺のいこいの森で、これまで観光という遠出ばかり考えていたが、私たちの町にもこんなにいい所があるなんて...という声に代表されます。

郷土再発見」という感じの一日であったようです。

◇◇◇20年の歴史を綴る◇◇◇

# 『村報縮刷版』を発刊

ぜひお備えください

わたしたちの「東由利」が誕生して、今年で二十二年になりました。この間に幾多の変遷を経て、今日の繁栄をみています。昭和三十年に旧村が合併し、第一号の東由利村報が発行されたのは、同年八月十五日です。以後、昭和四十九年四月に町制

を施行するまでの二十年間に、定期号は二〇七を数え、そのほかに増刊や数回の号外も発行されています。

町では、このたびこの東由利村報を「縮刷版」として一冊にまとめ、発刊することにしました。

縮刷版には、二十年間の村報が全ページ収録されますので、旧村合併後の村政の推移や町内のできごと、ときの話題などが手に取るようにわかり、その時代を経た人には、懐しく、鮮明によみがえってくるものと思われれます。

内容 A4版で、一冊約五八〇ページ。

値段 一冊二、〇〇〇円

発行 十月上旬

申込み期限 八月十日

申込み先 東由利町役場総務課(電話可)

二十年間の町の歴史をひもとく唯一の『生きた郷土史』でもありますので、ぜひ、あなたの家庭でも一冊お備えください。

なお、申込みについては別途回覧しますが、直接役場に申込んでくださっても結構です。

## 善意

町社福へ十万円  
伊東知也さん(蔵)は、亡父の香典返として、十万円を町社会福祉協議会へ届けられました。

どうもありがとうございます。  
老方小に雑巾百十枚

町連合婦人会老方支部(長谷山シゲ支部長)では、先ごろ老方小学校に雑巾百十枚を贈り、喜ばれています。

袖山小に雑巾四十二枚  
町連合婦人会袖山支部(鈴木マサヨ支部長)では、六月中旬に袖山小学校へ雑巾四十二枚を贈り、喜ばれています。

- 〇誕生 おめでとう
- |       |     |     |    |
|-------|-----|-----|----|
| 佐々木昌子 | 新町  | 捷一  | 三女 |
| 小野鉄也  | 寺田  | 義信  | 二男 |
| 小野大輔  | 蔵新田 | 源一  | 長男 |
| 佐々木琴恵 | 大琴  | 長円  | 長女 |
| 小松秀和  | 山崎  | 俊秀  | 二男 |
| 遠藤良馬  | 新処  | 良夫  | 二男 |
| 横山真弓  | 高戸屋 | 武男  | 長女 |
| 高橋信吾  | 須郷  | 喜代志 | 長男 |
| 小野智子  | 高屋  | 集一  | 長女 |
| 佐藤弘幸  | 田代  | 一二  | 二男 |
| 畑山真太郎 | 大琴  | 清真  | 長男 |

# 慶弔

5月21日~6月20日

〇結婚 おしあわせに

佐藤利一 袖山  
佐藤養子 寺田

〇お悔み申し上げます

畠山フタミ	横小路	79歳
伊東与吉	蔵	81歳
小松キチ	松柴	82歳
菅原ヲテフ	八日町	74歳

農家あらしが  
出没しています  
戸じまりはしっかりと!

# 東由利町報

No. 260 昭和52年7月15日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



## 営農メモ

### ◇紋枯病の防除

出穂五〜十日前に一回、多発田ではこれに十五〜二十日前の二回、有機ひ素剤を散布します。

パリダシン粉剤、ポリオキシシン乙粉剤では、出穂直前と穂揃期の二回散布とし、出穂直前、出穂期以降のひ素剤の散布は葉害がありますのでさけることが大切です。

### ◇出穂直前のいもち病の衛生・防除

出穂直前の葉いもち病は、穂いもち病の感染源です。

これを防ぐためには、発生の多少にかかわらず、葉いもち病は一斉に広域にわたって防除し、無菌状態で出穂させることが大切です。

### ◇穂ばらみ期の水管理

低温時の不稔障害、高温の酸素不足と気象の変動に応じた水管理が大切です。

特に、出穂前十六〜十日の低温期は十二〜三程度の水深が必要です。

(東由利町農業総合指導センター)

# No 260

7/15

第二十二回町畜産共進会

# 知識を研ぎ合う場が充実

## 66頭の出陳でにぎわう

共進会は、日ごろ丹精の出陳者はもちろん、出陳できなかった飼育農家も共に会して、畜産についての研究や知識を交換し合える絶好の機会ですが、ここ数年は出陳頭数が年々減少しており、また、参加する飼育者の人数もあまり芳ばしくなく、残念がられていました。

共進会は、日ごろ丹精の出陳者はもちろん、出陳できなかった飼育農家も共に会して、畜産についての研究や知識を交換し合える絶好の機会ですが、ここ数年は出陳頭数が年々減少しており、また、参加する飼育者の人数もあまり芳ばしくなく、残念がられていました。



町と農協の共催で行われている恒例の町畜産共進会は、二十二回を数え、今年も去る六月二十九日、館合字上の台(旧玉米中グラウンド)を会場に開催されました。

成牛十四頭、系統繁殖牛九頭、乳牛十九頭(ジャージー種七頭、ホルスタイン種六頭)、系統繁殖牛六頭)が勢ぞろいした様は、たのもしくも思え、審査員の方々のことばを借りれば、年々、改良がすすんでおり、質も良くなっている」ということであり農家個々の飼育熱心がかがえました。

上位入賞者は、次のとおり。  
〔黒毛和種若牛区〕  
▽一等賞 ふくよし号 畑山喜一郎(館合新田)  
▽二等賞①遠藤正輝(館西) ②阿部仁志(岩館)

〔黒毛和種成牛区〕  
▽一等賞 ①きよひめ号 小笠原正作(土場沢) ②かなめ号 鈴木要(沼)  
▽二等賞 ①武田玲子(宿) ②小松四三(上通) ③小松慶治(大琴)

〔黒毛和種育成牛区〕  
▽一等賞 たかはな号 高橋五助(久保)  
▽二等賞 ①佐々木善一郎(大琴) ②遠藤熊雄(新処) ③大日向小吉(宮の前)

〔ジャージー種〕  
▽一等賞 ①ウイローロマンス ウッドスター号 畑山克司(島)  
▽二等賞 ①畑山克司(島) (ホルスタイン種)  
▽二等賞 ①アックランマーカードアアーチス号 莊野高(五海)

また、今年の共進会では初めての試みとして、個体の体重を一目で当てる「ズバリ当てましよう」クイズなども行われ、参加者が眼力を競い合うという見せ場もつくられ、この会に対する主催者側の意気込みが感じられました。



### 紙のことは

いよいよ、暑さ本番。昨年は、これからの季節が異常に低温だったため、六十数年ぶりの暗い実りとなってしまった。昨年の天候を振り返ってみると、晴天の日は五月が十二日、六月が八日、七月が十三

日、八月が四日、九月が九日、十月が八日しかなかった。これを見ても、八月以降の天候が稲の作柄に大きく影響したことがよくわかる。しかし、今年もこれと類似した気象にならないという保障はない。今年の稲の成育は、今のところ平年並み……昨年の教訓を生かし、こまめな管理に心がけ、少なくとも、人的要因で災害を受けることのないようにしたいもの……。(老方で七月十二日撮影)

### 戸籍・除籍の 謄本・抄本について

#### 戸籍の窓口1問1答

問 役場へ戸籍の写を請求に行きますと、係の職員から「戸籍の謄本ですか、抄本ですか、それとも除籍の謄本ですか、抄本ですか」と聞かれます。除籍とは、また、謄本と抄本はどう違いますか。答 除籍とは、戸籍内の全員が戸籍から除かれたものをいいます。たとえば、一つの戸籍に夫婦と子どもが記載されているが、子どもは結婚し他に戸籍が作られて親の戸籍から除かれ、その後、夫婦

問 死亡しますと、その戸籍は除籍になります。答 謄本とは、戸籍、除籍の原本の内容をそのまま謄写したものです。抄本とは、謄本と異なり戸籍、除籍の原本の一部を抜き書きしたものです。そして、抜き書きの範囲は請求者の任意に任せられています。したがって、相続人を調査するような場合には、謄本でない調査できませんが、婚姻届の際に添付する場合は抄本でも間に合います。

院挙  
参議院  
選挙

# 投票率 (85.03%) は全県5位

**全国**もつたない無効票 500

保守単独政権維持か、保革逆転か、その審判を全国民に仰いだ第十一回参議院議員選挙は、薄曇りのなか七月十日に投票が行われました。午前七時、いっせいに開かれた町内十三投票所への有権者の出足は好調で、午前十一時までに約四十五割に達し、最終投票率は八十五・〇三割で、最も投票率が高かったのは、男が第十一投票所(大谷地)で九十三・六二割、女が第八投票所(高村)の八十九・四七割でした。これは、上小阿仁村などに次いで全県で五番目の高い投票率です。

**地方**のろた氏に軍配

本町分の開票は、同日午前七時から役場会議室で行われ、三人の立候補者で一議席を争った県地方区選出議員の得票結果は午後八時前に、全国区選出議員の得票結果は同十時過ぎに、それぞれ判明しました。

県地方区選出議員の最終開票

結果は、自由民主党公認ののろた芳成氏が三十二万一千票余を獲得し、次点の日本社会党公認の沢田政治氏に三万五千票余の差をつけて、初当選しました。

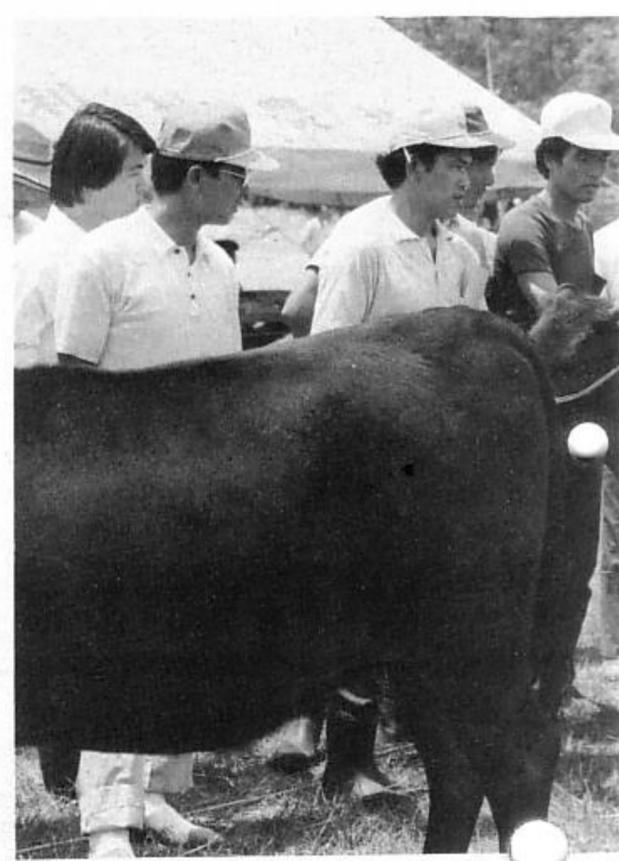
当選 のろた芳成 自民新 三二一、五八六票 (二、三七四票)

次点 沢田政治 社会前 二八五、九七八票 (一、四二二票)

伊藤昭二 共産新 五七、七三八票 (一〇二票)

※ (一)内は本町の得票分。なお、本町での全国区選出議員の上位得票者は次のとおり。

① 梶木又三(自) 七八三票  
② 宮崎正義(公) 三七二票  
③ 増岡こうじ(自) 二八九票  
④ 福島茂夫(自) 二二五票  
⑤ 佐藤たか夫(自) 一六一票  
⑥ あき山あつし(社) 一五三票  
⑦ 竹内きよし(自) 一三〇票  
⑧ 大森昭(社) 一二九票  
⑨ 片山正英(自) 一一〇票  
⑩ 徳永正利(自) 一〇六票 (按分省略、一〇〇票以上)



その価値が見直されてきた畜産共進会―多くの飼育農家の知識交換の場として期待されます。

保)

▽二等賞 ①柴田浩(須郷田)

〔系統繁殖牛区黒毛和種〕

▽一等賞 ①(きんえい号・きんえい二号・きんえい三の一号)

② 畑山喜一郎(館合新田)

▽二等賞 ①下田三太郎(久保)

〔系統繁殖牛区乳用牛〕

▽一等賞 ①(フイーンランド)

ロメオランド号・フイーンランドビュートイウエーバー号・フイーンランドカウントウエイン

号) 大庭喜右エ門(舟木)

▽二等賞 ①畑山克司(島)

※ ○内は席次 所有者敬称略。

**郡共進会でも 真価を發揮**

七月八日、本荘市家畜市場構内で開催された第十三回由利郡畜産共進会には、町共進会の上位入賞牛七頭が出陳され、厳し

い審査の結果四頭が上位入賞を果たし、真価を發揮しました。郡共進会での本町入賞者は次のとおり。

〔黒毛和種若牛区〕

▽一等賞 畑山喜一郎

▽二等賞 高橋五助

〔黒毛和種成牛区〕

▽一等賞 小笠原正作

〔ジャージー種〕

▽二等賞 畑山克司



配置された自動車ポンプ

1 コマ 町政ルポ

## 自動車のポンプを更新

町民みんなの願いです。しかし、火災や災害はいつ、どんなときに、どんな型で、私たちに襲いかかってくるかわかりませんので、そうした有事に際しては、できる限り万全な体制を整えておかなければなりません。

現在、町消防団の中で自動車ポンプが配置されているのは、

第三分団だけです。その自動車ポンプも中古で購入してからすでに六年を経過しており、老朽が激しく今年度に更新を計画していましたが、先ごろ納車され、その入魂式を行い、同分団に配置されました。

消防力の充実のためには、団員の技能練磨はもちろんですがそれと併せて、施設、機械の充実も不可欠です。このたびの更新もその一端であり、今年度ではこのほか、防火用水槽二基の新設も計画しています。

**21日に消防訓練大会**

また、これとは別に恒例の町消防団の消防訓練大会が、七月二十一日に台山グラウンドで開催されます。

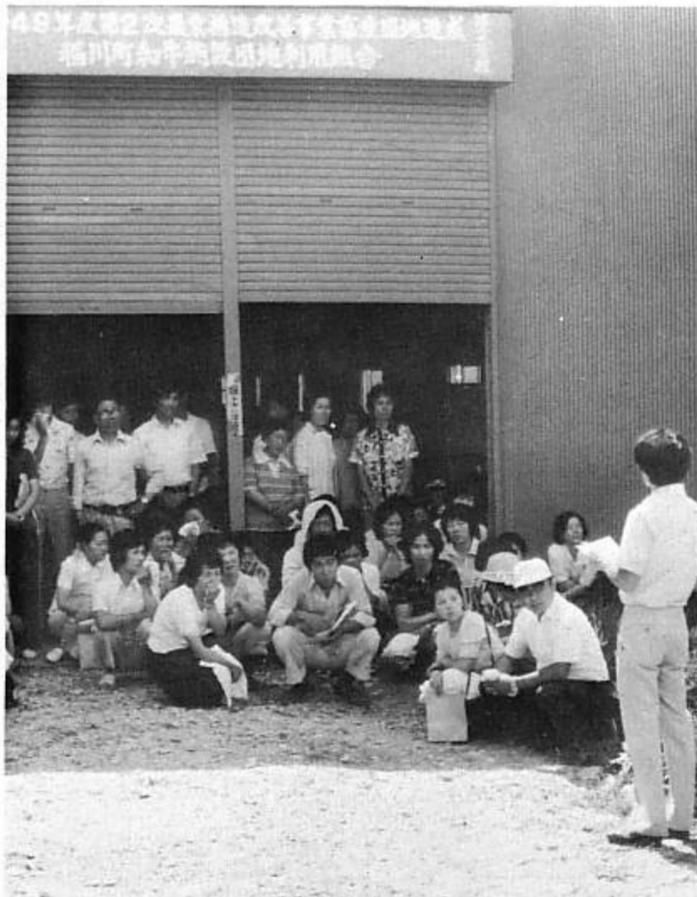
町消防団員の技術や団の組織規模などを見学できる唯一の機会ですので、多くの方々が見学され、より一層消防行政にご協力をお願いします。

# 水遊びの季節 子どもを水の事故から守ろう

水遊びの季節になりました。しかし、毎年この季節は水による子どもの事故が発生しています。しかも、それらのほとんどは「もっと注意していたなら……」と悔まれるものばかりです。今一度私たちの周囲を点検し、幼い命を水の事故から守りましょう。

# と経営を見直す最高の機会

## 湯沢・雄勝農業視察



③ 三梨牛飼育舎

三梨牛は、県下はもちろん全国的にもその名声を得ている。その三梨牛生産の中核であるという後藤さんの牛舎を視察。ここでは黒毛和種の肥育一本で常時 200頭以上を飼育しているというが草地は 1.3ha だけのこと。横浜の食肉市場に販売し、年間 1億 6,000万円の粗収入をあげているという。(後藤さんの説明を受ける参加者たち)

町が、昨年始めて実施した「農業視察研修」は、郡・県下にも例の少ない企画であり、注目をあびました。この視察研修は、他市町村の農業の実態を視察しながら、東由利の可能性を探り、農業人としての自覚を高め、農業情勢の理解と相互の交流を深めることをねらいとしたものです。町では、昨年の成果をふまえて今年も七月五日に「湯沢・雄勝農業視察」を実施しました。婦人と青年を中心にした一般参加者一〇三名のほか、町長、収入役、町議会産経委員、公民館長、町、農協の関係課長および職員で構成された一行は、午

前七時半過ぎに東由利を後にしました。最初の視察地は、自力で栽培面積の拡大をはかり、着実に収益を伸ばしているという、雄勝町秋の宮の運出しいちご栽培団地を視察、集荷場と栽培畑で関係者の説明を聞き、質疑を寄せていました。次に、一行は湯沢市山田の三〇〇頭牛舎を訪れました。ここ数年、町内の農家には家畜(特に和牛)の飼育熱が高まってきているだけに、特徴ある牛舎の構造や関係者の経営管理の説明などに、見、聞き入っていました。同市、青少年勤労センターで

昼食、休憩のあと、午後からはまず稲川町に足を向け、有名な三梨牛の飼育舎を訪れました。常時二三〇頭を飼育し、和牛だけで年間一億六千万円の粗収入を上げるといふ経営を目のあたりにしました。一行が最後に視察したのは、羽後町明治地区のスイカ栽培団地で、約四十分にあたり、まもなく出荷されようと思われるスイカ畑を視察、経営内容等の説明をうけました。全日程を終えた一行は、四時から約二時間にわたって、雄物川町三吉山荘で多少のアルコールも交えて反省会―それぞれの立場によって、受けた感想も様々であったようです。

視察をそのまま東由利農業に当てはめることはできませんが、低迷する農業情勢の中で、他市町の農家がどのような姿勢で農業に臨み、どのような展望を持っているか、を膚で知り得ただけでも大きな収穫であり、地形的な制約の中で東由利農業の新しい方向をみぞす糸口となったほか、参加者がそれぞれの農業に対する姿勢とその経営を見直す絶好の機会にもなったようです。以下、カメラで同視察をレポートしてみました。

\* \* \*



稲作にプラスする拡大作目の選定が、東由利農業の当面の課題であるだけに、関係者の説明に聞きたい参加者の目は真剣そのもの……この日は町長も視察者の一人。

### 東中に「芝刈機」のプレゼント

先ごろ、三栄機械器具株式会社(秋田市)から、町に「芝刈機」の寄贈がありました。これは、同社に勤務する石綿孝二氏(本町大琴出身)の努力で実現したもので、町ではこれを東由利中学校に備え付けました。同校では、これまで構内の芝の手入れはすべて「カマ」による手刈りをしていましたが、仕上がりがなかなか思うようにならず、その維持、管理に苦慮していただけに皆大喜びしています。



寄贈された「芝刈機」

### 三献血功労者に 日赤特別社員章授与

十回以上の献血功労者として先ごろ、次の方々に日本赤十字社から「特別社員」の称号が授与されました。 嶽石文弥さん(25歳) 五海保 鈴木博さん(36歳) 大琴 佐々木幸雄さん(39歳) 大琴

電話局からのお知らせ

加入者名	設置場所	異動種類	電話番号
遠藤 ハツミ	館西	新設	2169
菊地 千代子	五海保	〃	2170
菊地 サツ	〃	〃	2171
小松 富義	〃	〃	2172
畠山 ミヤ	下小路	〃	3000
小松 フサ	新町	〃	2160
小松 三代三	横小路	〃	2161
小松 キクヨ	下通	〃	2162
長谷山 武之助	祝沢	〃	2164
佐々木 富也	大琴	〃	2168
小松 敏雄	石高	〃	2174
阿部 保次	中通	〃	2175
畑山 ミエ	宇戸坂	〃	2179
長沼 久男	新町	〃	2046
阿部 フサヨ	〃	〃	2150
高橋 幸年	大琴	譲渡	3954
小野 捷二	館西	〃	3001
長沼 久利	新町	〃	2177
藤丸 隆	田代	新設	2077
佐々木 直松	大琴	〃	2068
大日向 貞弘	〃	〃	2079
柏原 健一	新町	〃(ピンク)	3503
下郷 分校	台山	〃(赤)	2863
大塚 清	下小路	譲渡	2795
阿部 宇佐エ門	野田	〃	3985
シマ電子KK	島	転出	—
小野 健	館合新田	〃	—
下村 宏二	田代	〃	—



④ スイカ栽培団地

視察した同町明治地区林崎団地では、42戸の農家が18.7haのスイカ畑から年間430tを販売—総販売額約840万円をあげているとのこと(一戸平均44万5千円、10a当り約10万円)。

今後の課題は、スイカ栽培に集中する労働の分散・作付面積の拡張に伴う価格の不安定・連作障害等の克服だという。(農地造成によるスイカ栽培畑の視察は感銘を与えた)

姿勢

東由利町

② 300頭牛舎

昭和50年5月から3戸6人の全面共同経営(法人組織)で事業開始一年間約1億1,700万円の粗収入をあげている。

飼育牛の尿を地下浸透させずに蒸発させるという床の構造もこの牛舎の特色。素牛は県外産が多いので「もっと肉質のよい牛を育ててほしい」と県内の繁殖農家に訴えていた。(牛舎の床構造の説明に聞き入る参加者たち)



① いちご栽培団地

組合員176戸で20haの栽培畑を持ち、本年度は2億円の販売を目指して生産活動をすすめてきたが、目標をはるかに上回りそうだという(7月1日現在で1億円を突破)。ちなみに10a当り粗収入は70万円から150万円とのこと。(集荷場と栽培畑で関係者の話を聞き大いに刺激された)



# 町民のひろば

## 刈ぐるみ 摘もう非行は芽のうちに

今月いっぱい「社会を明るくする運動」

子どもが健やかに育ってほしいと願う心は、一人親だけのものではありませぬし、子どもを非行の魔の手から守るのは私たち大人全体の責任でもあります。

しかし、急激な社会環境の変化経済の変動に伴う価値感の多様化、地域住民の連帯感の希薄化、情報の氾濫などに起因すると思われる少年の引き起こす犯罪の占める割合は、ここ数年しかも依然として、県内の全犯罪の四割近くに達しています。

大切な「対話の場」 県では、地域社会における青少年非行の防止を目的に、今年も「第二十七回社会を明るくする運動」を七月一日から同三十一日までの一か月間、全県下に繰り広げています。

人口総数	6,532人
うち男	3,208人
うち女	3,324人
世帯数	1,484戸
面積	148.51km <sup>2</sup>
(52・7・1現在)	

### 速度制限

六月から次の三地区が、速度制限されました。

- 蔵由利百貨店前から岩館大日向小一郎宅前まで(岩館部落内)
  - 時速30kmに制限
  - 全長六〇〇m
- 農協玉米支所購買前から滝の沢まで
- 田代沖田橋から嶽石義助宅前まで(住吉小付近)
  - 時速30kmに制限
  - 全長七五〇m
- 横断歩道
  - ・館合バイパス五海保交差点付近
  - ・町道須郷田跡見坂線須郷田入口

これは、同運動県実施委員会が中心となり、関係機関と連携を図って「犯罪の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合せ、犯罪のない明るい社会を築こう」ということをねらいとしています。



## 走れ!! 青春



遠藤薫君 (小倉) 二人兄弟の兄貴 昭和34年3月12日生 (農業)

- ◇ 高校を卒業して三か月、社会人としての感想は…。
    - ◎ まだ高校生時代の延長のような気がして「社会人」の実感はないのが事実です。だだなんとなく毎日を過ごしているような一面もありますので……。
  - ◇ 仕事をしていて一番楽しいことは何ですか。
    - ◎ 農業一年生ですので……楽しいということよりも、仕事を覚えることだけで精一杯です。
  - ◇ 今一番やってみたいことは……。
    - ◎ 旅行……遠出をしてみたい。
  - ◇ 君にとって「青春の実感」とは何だろう。
    - ◎ 結果の成功、不成功や他の批判を恐れず、今すべきこと今しなければならぬと思うことにむかって、打算を交えず堂々と精一杯アタックするのが、アタックできるのが「若さの特権」ではないだろうか……。
- ※ 積極性が足りないで直していきたいという彼、好きな読書の時間が持てないのが残念、という好青年でした。(インタビューー 小松)

## 食中毒にご注意!!

- ▽ 梅雨から盛夏に向かうこれからの季節は、例年ながら心配されるのが「食中毒」の発生です。特に、蒸し暑い夏は、細菌やカビなどの繁殖にとって好適な環境でもあります。
- ▽ そこで、次のことは必ず守って食中毒の予防に努めましょう
- ▽ 手洗いの励行
- ▽ 食品取扱いの三原則である清潔(きれいな所でつくる)温度(保存は十度以下のところに。食べる前には加熱)、迅速(早めに食べる)の励行
- ▽ 調理用器具、食器などの洗浄と消毒の励行。
- ▽ 調理場所の整理整頓、清潔

善意

袖山小に校門寄贈  
袖山小学校PTA(畠山友雄会長)では、先ごろ袖山小学校に校門を寄贈し、喜ばれています。